

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 Bounbouly THANAVANH

論 文 題 目

Assessment of the underlying causes of adult deaths using a short version of verbal autopsy in Xaiyabouli Province, Lao People's Democratic Republic

(ラオスのサイニャブリー県で行った口述剖検ツール短縮版による  
成人の死因特定の評価)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員 若井 建志

名古屋大学教授

委員 八谷 寛

名古屋大学教授

委員 石井 晃

名古屋大学教授

指導教授 山本 英子

## 論文審査の結果の要旨

本研究の目的は、口述剖検ツール短縮版を開発し、それを用いてラオス人民共和国における成人の死因を特定することである。口述剖検ツール短縮版は医療施設外での死因を特定することを目的に開発された。本研究の対象は、2020年にラオス人民共和国のサイニャブリー県で発生した全死亡（年齢対象は15歳以上）であった。死因分類の中で最も多かったものは、心疾患または腎疾患であった。多分野にわたる非感染性疾患の発生予防に有用な費用対効果の高い政策の運用が望まれる。ラオス全域において、今回開発した口述剖検ツール短縮版を用いた死因特定が行われることが望ましい。

本研究に対し、以下の点を議論した。

- 1, 口述剖検ツール WHO 版と、今回開発した口述剖検ツール短縮版にはいくつかの相違点がある。WHO 版は内容が膨大で、死因特定に時間を要する。また、WHO 版を導入するには、多くの時間と予算、すなわち、専門家による支援や、実運用に必要な多大な訓練と、ICD-10 に関する専門知識が必要である。ラオス人民共和国においては、動的統計調査はまだ開発途上であり、また、ICD-10 も死因の記録にまだ導入されていない。さらに WHO 版の解釈には専門知識が必要であるため、死因の特定に WHO 版を運用するのは、一般の医療従事者、とくに地方においては、極めて困難である。一方、今回開発した口述剖検ツール短縮版はわずか 2 ページからなり、一般の医療従事者が運用するのに単純かつ平易であるため、ラオス人民共和国の動的統計調査にも統合可能であると考えられる。
- 2, 家族に、死亡した人に関して記憶をたどってもらいながら、以下のように質問をおこなった。第一に、その人が事故や外傷により死亡したかどうか。第二に、もし事故や外傷で死亡しなかった場合、死亡する前の通院記録はどのようなであったか（開示を含む）。第三に、死亡した人の病状経過がどのようなであったか。最終的に、通院記録と家族が答えた病状記録を比較した。
- 3, 法律の規定により、自宅でも医療施設でも、家族は Village Head Office に死亡の報告をする必要がある。さらに家族は District Home Affairs Office にも報告する必要がある、その時点で死亡診断書が交付される。家族は最後に、死亡診断書を District Public Security Office に提出することにより、戸籍簿に死亡が記載される。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	Bounbouly THANAVANH
試験担当者	主査 若井 建志		副査 <sub>1</sub> 八谷 寛	
	副査 <sub>2</sub> 石井 晃		指導教授 山本 英子	
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 口述剖検ツールWHO版と口述剖検ツール短縮版の違いについて</li><li>2. 口述剖検ツール短縮版における家族への質問の例について</li><li>3. 自宅での死亡における診断者および報告者について</li></ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、医療行政学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				